

つながる鎌倉エール事業
令和6年度実施事業報告会 各取組の講評

■スタートアップコース

1 「聞き書きボランティア養成講座」主催（あしあと）

① 評価できる点

- ✚ 共生社会の実現に向けて、社会参加が難しい方々が聞き書きの講座を通して社会とつながりを持ち、様々な人との交流を持てる活動内容はとても価値がある。また、高齢化社会において聞き書きの活動は今後非常に大事になると思われ、その効果が大いに期待される。
- ✚ 新たな会員を6名獲得したことで団体としての基盤強化につながったと思われる。
- ✚ 提案書やチラシを作成して福祉団体や自治会等へアプローチを進めている。

② 課題点

- ✚ 資金繰りや講師育成の問題があり今後の活動の継続性に懸念が残る。
- ✚ 生涯学習にとどまらないよう課題の明確化や今後の対応について再考する必要がある。

③ 今後のアドバイス

- ✚ 有名講師に頼っている現状があり、団体としての自立の妨げになってしまう点が懸念されるため、今後は有名講師のみに頼る体制から、自分たちで活動を周知し、裾野を広げていく取組に焦点をあて持続可能な活動をつくってほしい。

2 多世代交流と居場所作り事業（6+c a f e）

① 評価できる点

- ✚ 新たな「本の駅」設置の取り組みは、短期間で地域に根付きつつあり、地域全体を巻き込みながら今後も拡大していく見通しがあり素晴らしい取組として評価できる。
- ✚ 地域の居場所づくりや孤立解消など福祉的な役割を果たしている。
- ✚ 特別養護老人ホーム「ふれあいの泉」への出張コミュニティカフェ運営事例など、地域内外への活動範囲拡大や人材発掘の可能性があり評価できる。

② 課題点

- ✚ 予算規模の縮小や寄附金額の不安定さによる資金難の課題や人手不足の課題がある中で、2、3年先を見据えた収支計画や人材確保の見通しが不透明である点が懸念される。
- ✚ 団体としてのミッションや目的が明確でない点があり、今後の方向性や目指すべき姿についての議論が必要である。

③ 今後のアドバイス

- ✚ 小規模イベントでの募金箱設置や、必要備品や食器の寄付を募るなど、地域住民や他団体のノウハウやネットワークを活用することで、消耗品購入費の削減や活動の幅を広げ、経費の削減や人員確保に動いてほしい。また、移動式図書館や企業との協賛・連携にも挑戦してほしい。
- ✚ 今後の安定的な運営や資金調達拡大のため、人材の参画や、今後の継続性を考慮した場合、法人化の可能性にも目を向けてほしい。

3 まちづくり事業（鎌倉小町まちづくりラボ）

① 評価できる点

- ✚ 神社のような公共性がある場所を拠点にすることで、市民が参加しやすいという利点があり評価できる。鎌倉には神社が多くあるため活動を水平展開し今後につなげてほしい。

② 課題点

- ✚ 今後活動を継続していくにあたり会費や外部収益、寄付の拡大が必要不可欠である。
- ✚ 広報活動に偏りがあるため、団体としての周知が不十分であることが懸念される。また、参加者はいるが企画から関わる担い手がないという課題もあり団体の人員確保が必要である。

③ 今後のアドバイス

- ✚ 小町地域内だけでなく、地域外の小町好きな人も巻き込むのであれば、口コミを中心により広い地域へ発信する手段を検討しつつ、団体としての広報活動も行ってほしい。
- ✚ 自治会・商店会の役割分担の難しさがあるため、課題の整理をしたうえで活動を進めてほしい。